女子青年界




御進物には
ライオン歯磨
クリスマス用にも
御歳暮用にも
ライオン歯磨の各種製品に限ります。
東京市本所區外手町
ライオン歯磨
ライオン石鹸
本舗
株式会社 小林商店
支店
大阪東區博勞町二丁目
名古屋市桑名町四丁目
上海・漢口・天津

第十五卷
第十一號

女子青年界目次

大正七
十二月

■論説■

■講演■

外國人交際用贈答用品充實完備
内地流行界より一歩づゝ先走つた品物のみ



意匠、技巧優良
價格低廉
信用安全
取引敏速

永年外國人向にて苦心の點品物に現はれて居る筈です態々横濱迄御用命の甲斐あると確信致します

横濱市辨天通二丁目拾貳番地
辨天商會

W. M. Vories and Company, Architects

Hachiman, Omi
and
National Y. M. C. A. Building,
Omote Sarugkucho, Knda, Tokyo.

建築 設計 監督 ヴォーリズ合名會社

近江八幡町

東京出張所　基督教青年會同盟本部内

東京市神田區表猿樂町

電話本局六二四番

省御買上八回
殿下

桑港萬國大博覽會銀牌受領

於博覽會共進會金、銀、銅牌廿餘回受賞

甲斐産

水晶

細工品

印篆刻
眼鏡一式
軸掛物
装身具
床置物
珠數

指環
中差
簪
櫛
根掛
エリ止
帯メ
守玉
ヒン
カフス釦

印傳

袋物

二ッ折札入
弗入
財布入
莨入
手提
手袋
スクールバック

共紐
叺
御殿持
巻莨入
火の用心
文人持

申越次第商品目録進呈

水晶印章篆刻幷に細工品共懇切を旨とし精々勉強仕り

商標

玉泉堂

山梨縣甲府市柳町

電話百〇二番

振替口座東京五〇六四番

子青年界
第十五巻 十二月號
大正七年十二月一日發行

天と地の關係

河井道子

が締結され、各所に其祝賀會が盛に催さ
に講和會議が佛國ヴエルサイユ宮にて開
界の平和が降來ると云ふ此吉祥の時に際し
の救主の御誕辰を祝ふクリスマスを迎へる
と云ふてよいか、實に意味深い歡喜と、眞
敬虔の念とが胸に充つるを覺えます。歐米
は戰爭の勝敗にかゝはらず、此期節を今
迎つた眞面目なる祝意を表すると存じます

ころには榮光神にあれ、地には平安、人には恩澤あれと」歌ふ事でありましよう。我々も此度の降誕祭は赤心休戰を感謝して、神の榮光のいよ／＼輝き地には神の建て給ふ平和が來り、人類が靈肉に於て恩澤を受け得る樣に天軍と共に歌ひ、共に祈り度いものであります。其には何處までもエス君の世に降り給ひし事が衷心よりの歡喜と感謝にならねばなりません。

ふたり、魚をやらうと云ふと、蛇をくれと乞
、降誕祭には僅ばかりの贈物や、一番大く所
世界の平和を神に願ひましたとても、若し神
キリストを汝に與ふと仰有ると、其は不要せ
退る人は仲々大勢あることでしよう。併し世
和も、社會の秩序も、家庭の和合、個人の親
其源はキリストにあり、彼が地に降り給ひし
て、眞の幸福が人類に降つたのであります。
く々の心に生れ給ふ時には最上の祝福が我々に
のであります。「かれ己の國に來りしに其民
接ざりき、彼を接信ぜし者には權を賜ひて此
子と爲せり」。
は彼の來りますことを平和を切望する如くに
で居りましようか。彼が世界を統御し人心を
る丶事を旱魃に雨を祈るが如くに祈るでしよ
降誕祭には神の子が世に來り給ふたと云ふ事

に景氣がよい時節、西洋のお祭だ位ですますのであ
るとせば、昔ユダヤの野にて羊牧者らが聞いた天使
の頌榮は全く意味のないものであります。
至大の神に榮光ありて、即ち尊むべき神が眞に尊
まれてでなくては地に平和や人に恩澤など來らぬも
のである事を覺悟しなくてはなりません。現今の日
本の樣に戰爭中に金が澤山這入つたとて神よりも佚
樂を敬愛するのでは、いくら休戰の大祝賀をやつて
も其で平和や幸福が公私に來るものではありません
屢々我々が耳にする言葉は日支親善とか、日米の日
露のと國際親善と云ふことですが、たゞ兩國の名士
有力家が食卓を共にして萬歳を百萬遍も連呼したと
て其丈で決して國と國との親善が計られるとは誰も
思ひません、シャンペンの醉が冷ると共に親善も冷
めて仕舞ふ事が往々あります。矢張信者のウキルソ
ン大統領の如きが出て、基督の精神を以て國際問題

どきに、又基督の心を以て心とする國民が
に始めて國と國との親和が結ばれるやうに
でも基督を以て我救主として其恩に感じ、
ひて世を渡らんとするものは貴賤貧富を問
の信用と親密とが御互に湧いて參ります。
ために至小さ者の一人に冷水一杯にても與
は其報を失はじ」とのキリストの御言葉を
すに、「我名のため」と云ふ點を思はねばな
、是はキリストを中心として彼を思ひ彼の
へて他に與ふるものはいかに僅なものでも
結果を生ずるが、たゞ利害問題で人の歡心
としてならば一本何百圓するシャンペンを
ふた大饗應でも醉の冷めると共に凡てが冷
ふので無益であることが分ります。
考へますと、基督が我々の心に生れ給ふて
もない喜で、又感謝であります。基督が一
給ふは其國家に取りて無上の幸福でありま

「君は王位王冠を捨てゝ我ための世にきませど
ベツレヘムには君を宿し奉る家はなかりき。
狐は穴に鳥は林の巣に休めど
神の御子の臥床は砂漠の砂上なりき。
人に自由を得させんと活ける御言葉もちし主は
嘲弄と棘冠戴きてカルバリ山に追はれ給へり。
エス君よ我心に來りませ此心をば宿となし給へ。

私共はクリスマスの美譚になれて新しい感のしないのは殘念な事ですが、實に美しい奥床しい物語であります。キリストの御誕生は天と地との距離を大そう近かく致しました。天は常に地を被ひ其幸福を守護る様に取圍んでゐますが、地は天をたゞ遠い高いものとのみ思ふて別に大關係がなきが如くでありました、然るにキリストの御生れなされし時に第一に天使が喜の歌をうたひましたとは、地上の幸福を第一に天上にて祝ふ表であります。日本の物語にでもよく偉人の生れる時には星が出るとか、何か天

た天の休徴がありましたが、基督も教へ給ふ言中に天地の親密なる關係を語られました。即ちの罪人悔改めなば天に於て大なる喜があるとかと汝等の繫ぎ或は釋ことは天に於ても繫ぎ又釋が、汝等のうち二人のもの地に於て心を合せ何でも求めば天に在ます父は汝等のため之を成しと云ふ語が聖書に澤山にあります。又キリスト字架につかれし時に晝の十二時より三時まで其まねく黑暗となつたと申のも、矢張天がいかに罪惡に對して苦痛と義憤とを感ずるかを表してす。

、天と云ひ地と云ひましても抽象的の事でなく界と靈界と、神と人間との事を申のでありますストに依り我等は生死問題も、肉體と靈魂とのも、人間同志の關係も、神と人との關係も全くにされたと申てよろしい。神が我等の中に在まの蕊から天井をのぞく樣な小細工でなく、基督を通して靈界を鮮明に知る事が出來るのであります。

一の發明は全世界に恩惠を與へます。一人の偉人は全世界に善惡共に感化を與へます。神の子が世に降り給ふたのに其に對して大變化が地上に伴はぬ筈はありません、確に大變動が色々の形狀で起り又起りつゝありますが、我々は其に氣が付かぬので、所謂時勢後の人間であります、假令ば今回の大戰爭で英、佛、米では大學者や資產家が一兵卒として戰場の露と消え、或は有爲の青年や、貴族華族の令息が我先にと戰地に馳せたのに對して我々は其犧牲、其勇敢、其愛國心に敬意を表さずには居られませんした。又一寸の領土、一錢の利益を得る爲でなく多大の人命と資力とを投じて人道、正義、自由のために加戰した米國の義俠心や、堅忍不拔の精神には驚歎はいたしますが、扨て是等は何から起つたかと

溯つて見ると、決して只科學の進步や資力
力優勢とか武器食糧が充分だとか丈ではあ
、即ち天の位を捨て僕の姿にて罪惡に染み
上に降り、人類を救はんがため十字架の恥
び給ひし基督があるからであります。此模
を教化して眞の犧牲を多くの者が實行し、
は皆勇士、義士となる事が出來たのであり
るに此點はぬきにして只々物質界の力にの
て居るのは確に時勢後の恨があります。我
精神界に注ぎ、神の子の世に降り給ひし大
に驚歎し、其恩惠を感謝する念を養ひ、ク
每に天使の歌の神に榮光、地に平和、人に
想が益々地上の實現にならせ度いものであ

一　もろびとこぞりて　むかへまつれ
　　ひさしくまちにし　主はきませり
　　主はきませり主は主はきませり

二　くろがねのとびら　うちくだきて
　　捕虜をはなてる　主はきませり
　　主はきませり主は主はきませり

三　常暗の世をし　てらしたまふ
　　あまつみひかりの　主はきませり
　　主はきませり主は主はきませり

四　しぼめるこゝろの　はなをさかせ
　　めぐみのつゆおく　主はきませり
　　主はきませり主は主はきませり

五　あまつ神の子と　齋きむかへ
　　すくひのぬしとぞ　ほめたゝへよ

世界的精神

海老名彈正

の休戰は神と神の國とに仕ふる基督敎主義の認める、君と國とに仕ふる犧牲の精神に於て國と中央同盟國と殆ど優劣はなかつた。唯聯比較的にもつと神と神の國とに仕ふる精神がと信ずる、故に聯合國の勝利について祝賀せ得ない。彼のロシヤの軍國主義帝國主義は既た。トルコ、オーストリヤ、ドイツの帝國軍も倒れた。之實に歷史上にない處の恐ろしいある。基督敎主義は何等の損害をうけざりしらず、其主義は之等の四大帝國の崩潰した爲其の光輝を放つ樣になつた。

敎は昔より歐洲の諸民族の中に傳へられてを元より深さ淺さは一樣ならざるも歐洲全洲に主義は根を置いてをつた、然るに基督敎主義が其の目的を達し得ざりしは何であるかと云へば即ち帝國軍國主義が其の障害物であつた。歐洲全洲は同じ一の神を父として仰ぎをる故互に兄弟姉妹の感情を持つてをる、處が此の尊き感情を發揮せんとすると故障がある之帝國軍國主義である。此度の戰によりて敵も味方もこの帝國軍國主義を滅さなくてはならぬ樣になつた。聯合軍がいつも強かりしのみにて勝利がありしにあらず、始は中央軍が勝ち終に聯合軍が勝つた、其の所以は軍隊の他に一大勢力があつた。獨の帝國軍國主義を破壞せしはたゞ聯合軍のみでなく、獨乙國中の者である。何故かと云へば內には國家以上の大きな主義と精神が國民の中にあつたからである。今迄被はれて居つたものが今勃發して來た。獨乙は亡びてをらぬオーストリヤも亡びて

此の戰は亡すのが目的でない、獨乙の中に
的同胞の精神のある者を救ふが目的で敵を
戰つたのでなく其の國中にある誤れる主義を
爲である、たゞ敵國を亡ぼして感謝の祝を
等は無情ではないと信ずる。獨乙も多大の
ふべく餘儀なくさせられたのであるから、
等と共に悲しむは當然であるが、又其誤ま
を直し、彼等自身も厭ふてゐた帝國軍國主
して彼等と喜を共にするのである。近頃の
電報を見るに國中喜を以て革命を迎へた
ある、我々も是より彼等が世界的に生きん
望するものである。
以前の日本は封建時代で、藩々は武裝的平
して居た。故に人を見れば敵と思へ、門の
人の敵ありなど丶云ひて、四海兄弟などの
頭もなかつた。併し王政維新に至りて過
を忘れ、敵味方もなしに、薩長のみでなく

樣になり、爰に全日本の經營が出來たのと同樣に、
最早休戰となつた今日は、獨乙が敵でもない、講和
會議の時には敵味方はなく、御互に世界の經營を考
へ、善後策を講じ、誠に尊い目的を達するのである
此戰爭の結果として共に厭ふてゐた帝國軍國主義が
亡びたとすれば世界には新なる生命が萠芽したので
ある。其は即ち世界的大精神と云ふのであるが、日
本人はどの位此精神を以て居るか、過去は國民道德
とて宗敎でも何でも此見地から考へられた。信者中
には危險思想がある樣に思はれたものがあるは、其
は世界的精神を持つてゐたからである。我等は最早
世界のおつきあひなどして居る場合ではなく、イン
タナショナルマインドを持つが大切である。此精神
がなくては世界的經營は出來ぬのである、我々は生
つけられたる基督の精神を基礎として全世界の人と
共に平和を迎へんために休戰を祝賀するものであ
る。（文責在記者）

の戰爭にて交戰國が聖書にある放蕩息子の樣
改めて居る事を望む、若しかの兄の樣な國民
ば由々しき大事で眞の悔改が必要である。
は尙高慢にして自省して居ぬとの記事も新聞
見るが、どうか然うでない事を祈る。此際色
民が國の事につき段々省み悔いて、今迄の方
にし、是を正しく賢い方に進めて行かねばな
氣付て居る。
云ふものも悔改がいる。戰爭中に歐米では禁
が仲々盛になり軍隊の間にも、人民の間にも
む事が國のためでないと考へてきて、飮酒は
禍とて法律もそれに對して出來た。其他奢侈
敎育に付色々と戰爭から國民が考込んで其弊
るやうに進歩して來た、かく悔改と云ふ事は
ある、人民が酒もやめ、贅澤もやめるは善事
が、此類の悔改は國家のためとか、又一人々

々の身上或は一家に何か容易ならぬ出來事に遭遇し
戰慄いて反省み、大に戒めらるゝ事があり、扨て
此から如何しようと云ふ點からの悔改である結構で
はあるが、基督敎の悔改ではない。如斯悔改は殷鑑
遠からず、恐ろしいと云ふ處から醒めて改めるが、
己の利益からの打算である。即ち是では國が亡びる
行末が心配だ、工業が潰れる、貧乏になると云ふか
らの悔改で、決して惡い事ではないが。基督敎の悔
改ではない。
人々の身上にも此樣な悔改がある。彼の放蕩息子
はおちぶれて、見苦しい姿になり、其處で父の家を
思ひ「我父の所には食物あまれる傭人の幾多か有に
我は飢て死なんとす、起て我父に往かん」とて家に
歸る處は自分本意で、己の利益を思ふてゐるが、か
ゝる類の人は澤山ある。併し又自分の行が道にはづ
れてゐる事を覺ひ、別に利害問題でも、行末を案じ

く、曲てゐるのを直さうとして悔改める人、是も又基督教の悔改ではない」の罪を悔改ると云ふは以上のより深いもの述べた如き悔改は門戸で、まだ堂に入つたい。基督教の悔改を手短に云ふと、人が眞知り、神が如何に我を愛し、如何なる手段を敎育し救ひ給ふか、神の清い思召や期待我は何をしてゐたか、却て神の愛を踏付に相濟ぬ、恐縮に堪へぬとの點から悔改める分の利益や、道理に合はぬ位の處からでは

四十二の五に「我汝の事を耳にて聞ゐたり目をもて汝を見たてまつる是をもて我自芥の中にて悔ゆ」とある、今迄神の事を耳が馬耳東風であつた、不徹底で、有つても樣、殆も寫眞で日本三景の趣味を味ふ樣にてゐない。たゞ耳で神の事を聞く位では、合せて見る樣になると、眞に面目ないと分る。我々は主エスキリストと其十字架とに照されて神を見ると神が父なる事、如何に神が罪を憎まれるか、罪がいかに神の心に重荷であるか、神が己を捨てゝ我を救ひ給ふたのが十字架であるかと云ふ事も、皆エスと十字架の影に照されて鮮明に神を見奉る、こゝに眞の悔改が起りヨブの云ふ如く己を厭ひ、塵芥の中で悔ゆるので是が基督教である。是まで來ると「我天と汝の前に罪を犯したれば最早汝の子と稱ふるにたらぬ者なり汝の僕の一人となし給へ」と云ふ樣になる。

故に國民が禁酒令を布たり、色々の改革が施され、官僚式の規則が出來て來るが、其位の程度で基督信者は滿足をしてゐては不可ん、國の事でも一個人の事でも其丈では相濟まぬので、三日坊主に成り易い。

英國十八世紀の社會狀態を調べると眞に風俗は亂れ道德なと廢頽して仕舞ひ、憂ふべき事の多かつ

改をなし、彼に依つて國民がやゝ本當の悔改いたのは著しいものである。レキーと云ふ不學者はウエスレーと其仲間との傳道はピットの兵威を海陸に於て光輝あらしめし以上に大響を英國民に與へたと云ふてゐる。又レキーに、佛國の恐るべき革命や危險思想の傳播を其惡毒の英國に流込むを見事に防ぎ、英國を立憲政體にした其原因の一はウエスレーと其傳道にあると。信者でなかつた學者がかく信響を賞讃してゐる。

能率ばかりをとなへたとて、金丈をためたと業ばかり盛になつたとて正しい基礎に誤のな々義をおかず、根本的に神に對して悔ゆるのならば、役に立たぬ。今は色々の改革や計畫しから世人と共に行くはよい事だが、我々は一役を強られなば是と共に二里行く覺悟が必要役者、パウロ、ルーテル、ウエスレーの心にありし如き悔改の感想が欲しいものである。眞心よりの悔改は必らず傳播するものである。故にたゞ法律や政府や、決議でなく、根柢のある基督教が此時勢に貢獻する事が出來るし又我々は貢獻することの出來るを感謝するのである。

五錢の元金で

さて本年度の夏休暇に於ける五錢の働は純益金參拾圓と云ふ例年に比しては思はぬ金額にのぼり其發附方に就いては幸にも在校の宣教師が佛國にて窮民兒童養育に從事中の友之有り候由にて先日直に佛蘭西へお送り下され候。其働の中には一寸風變りなるもの之有り候まゝ今二つ三つ其例を擧ぐれば、

一、某宣教師は旅行割引券を使用せしも使用せざる積りにて其れを賣り得し利益を持ち來りし事。

一、一少女は市場にて青物を安價にて買ひ求めそれを町にて普通に賣りて値けし事。

一、五錢にて色布を買ひ種々なる形に楊子入を作りて賣りし事。

此等の中最も收入の著しきは楊子入を作りし事に御座候。

（遺愛女學校）

西伯利行き（續）

河井道子

一日軍司令官大谷大將の特別列車が浦鹽よロフスク市に出發した。其中の婦人は我等つた。將校や通譯官等の間の一房を我等に、食事も彼等と同食堂に許可されたのは特た。新聞記者や僧侶も列車中にあつたが彼後部の方で食堂も違ふから、停車場に着いする時間外には顔を見合せることはなかつ〱名にしおふ西伯利の原野に這入るかと何にも愉快な遠大な心地がした。仲秋の滿たる平原や、地平線を劃して居る連山を照めて、か丶る靜けき空にも砲聲に驚かされ死傷者の壘をなしてゐる戰場もあるのが信樣であつた。外は寒のに相違がないが、汽度は九十度にも昇つた樣に感じ、老爺の車使に手眞似で窓を少し開けてと賴んでも、事して、開けないので、西伯利の夜間に汗を流して苦しむとは、日本にある友人は夢にも想像されまい列車が大な停車場に來ると、日本衞兵が整列して司令官を送迎する光景は見ものである。御蔭樣で我等二人も彼等の最敬禮を受ける心地がして、却て恐縮して仕舞つた。兵士の外は見物人が後部に黑山を築いてゐる。如斯して戰爭のあつた、イマン、スパシコイ、ユコライスク等を通過した。鐵道沿路の諸所には日本兵が護衞してゐる。嚴寒の來らば、戰爭よりかも、衞兵は御苦勞の事であらうと思ふた。

西伯利は美しい、我等の通過した處には川もあり山もあり、牧場も耕作地も見えた。白樺や楢の林は北海道を連想させる。食堂で一將校が盛に大谷大將に土地の說明、熊の隱家、北海道との比較などをして賑々しかつた。かくして廿二日の夕方にハバロス

引返して停車場にて兵士に案内を乞ひて、福教師ヤング氏が監督されてゐる青年會の倶樂を見出した。其内にはシモンス氏とて此市全年會主事なる人に逢ひ、大歡迎をうけた。外が堆積して、寒風身を刺す程であるが、車内トブが焚てあり、暖である。先づ我等の來訪を語り、日本幹事の場所を問ふた處、一人は面に日本青年會の貨車でゆき、前田兄は八市との事で、兎も角今夜は餘りおそいから、明ると申して、汽車に歸る事とした。停車場よまでは約一里はなれてゐる事で、軍人、勞働、汽車に起臥するものが甚だ多い。それで、浦鹽より乘つて來た汽車が八市に止まる間は宿とする事を許可されたのである。然るに汽路が變つた爲に我々の汽車は何處に行つて仕か、影が見えぬ。驛夫らしい者は第十一番の

ない。シモンス氏が探して下さる間、同氏の住居なる汽車を見に案内された處、第一に前田兄が出てこられ、御互に驚き喜んだ、車内は立派に充分に設備され、國旗や繪などが壁に飾られ、革製のソファが安樂の感を與へた。爰で紅茶の御馳走になり、見付かつたと報知があつたので自分等の汽車に歸り、又出直して、停車場でハムとパンと冷牛肉とで夕食をすませた。食堂か、三等の待合か、其混雜と、汚い卓や、脚の取れた椅子では區別がつかない。我等の隣には軍人も勞働者も皆肩がすれ合ひつゝ食するあり、談るあり、煙草の烟で室内の薄電氣が尙薄く輝るのは小氣味惡い。大急で食をすませ、氣味惡い群衆を此處其處に見ながら歩哨に誰何されつゝ汽車に歸つた。東京から來たと云ふ司令官附の若い從卒が不用と云ふに厚い二枚折の毛布二枚を貸してくれた親切と、室内の濕度とは却て熱すぎて苦しかつた

空晴れ渡り、人跡繁き處の雪は解け始め、難を感じた。前田氏に伴はれ朝九時に招魂行つたが、まだ早いので先づ市街見物をすた。途中歩兵、騎兵、衛生隊が長い列をな司令部前の大廣場に進みゆくに出會した。所から式場を見ると日本旗が幾條も空高く雪上にアーチが祭壇を圍んで其前方に幾千起立してゐるは勇ましかつた。

平素は人口五萬人と云ふが、主に軍人、官ゆゑ、商業地でないために大商館として見のはないときく。此地に在留日本人は約七過半は賤業婦のよし。竹内と云ふ有名な寫り其主婦は當市にての名物女であるさうだせんとして訪問したが、快く迎へられ、廿女が西伯利にある事と、市に於ける同胞の略を我等は物新しく伺がつた。

話にあつての此せし、救世軍と[illegible]に貰は

郎屋が此處にありましやう。ケレンキス政府の時には露國の日本醜業婦に對する處置は立派なものでした、かゝる商賣は奴隷制度であるとて其を廢して女を日本に送還してくれと依頼して來たのです。加之露國政府から、女一人に對して六百留の割合で旅費を出すとさへ申たのですが、樓主等は飽まで其に反對して、樣々の手段で、女を引留て居る中に過激派時代に無政府時代が來たので、彼等は此機會に一仕事と今は非常な勢です。女は皆九州島原天草邊から來ます。彼土地では、小學校の先生達から、外國でこんな稼をするのを獎勵するさうで、此市にも以前小學校の先生をしたものが貸席の番頭などして居るのがあります。賤業婦の成果ては大概支那勞働者の妻か妾です。先日も一人慘な死樣をした女があつて其も支那人の家内と成果て、平日重い荷物など擔いでゐたさうです。何代日本で渡航を禁ぜられたものさへ大手を擴げて闊歩して居りますゝの始末で[illegible]

ねたから、近所にある荒果た公園に雪をふみ龍川からの寒風にあたつたも面白かつた。午サック兵のために設けられた青年會場と米國めの會場とを訪問した。後者には長崎のツル氏が主任として勇しく活動中で、我等一行にチコレットを以て歡迎された。此建物も矢張のと同樣なトタン張りの倉庫で、床には一面をしきつめ、荒板に脚を付けた直席卓に、にした腰掛が一面に据てある。其處此處に兵茶やコヽアを樂むあり西洋將棋に夢中なるあヤノを彈く、歌をうとふなど、凡て愉快な氣つてゐる。數人の大工やブリキやが大なスト付けに忙しいのも心地よげに見えた。近々中、の立派な建物を青年會の用にあてるのだと、語られた、慥に有望である。歸途妙な風をしの日本兵に出逢ひ、悲しい感が止められなか

を出した。

其夜は手眞似で肉のフライと種々のパンを停車場の食堂に求め、宿所なる汽車に歸り夕食をした。車中は例によつて密閉で夏の樣に暑苦しい。其中に我等は一日中聽きし樣々の日本人の缺點や、罪惡に對して云ひ盡されぬ苦痛を感じ涙を以て神に訴へ、聖書を讀み今更の如くに基督が日本を救ひ給ふに非らざれば、亡びん事を思ひ、又同時に我等自身罪に冷淡であり、他人の善を喜ばず、利己に捕はれ、遠大なる事に着眼せずして、近視的に齷齪するを反省して神に詫び、救を求めて寢についた。

翌日は冷氣殊に強いが、日本兵舍を見に出掛けた前日よりは寒氣身を刺し、耳が痛くてこれでは耳被が入ると氣付いた。兵士は皆外套の上部の衿の處が毛でグルリと頸から顏の方へ三四寸も出て、風の當の樣に出來て居るから耳も顏も暖かさうである。

營は全市にある多くの兵營中一番遠くにあ小丘をいくつも越して滑りつゝ達した。煉が幾棟もあり、其間に木造の一階建が幾棟て居る。構内の中央に教會堂があつて内部ランドであるが、壁も汚れず、硝子窓も破タヽキの床も滑かで、少々手入をなせば立になる。此場を日本兵の爲にとて、日本青用する許可を得たとの事である。我等が行兵士二人が中に居つて、色々と話をした。招魂祭であつたから此處で餘興をした、浪職も居るし、踊の師匠も居るし、何でも出の事である。今度青年會がこの場所を使用士さんの爲に便宜を計るのですと云ふと、興でもするのですか」と問ふ。否、然ぢやすか、此處に暖爐もたき何時でも暖にしてを揃へ、手紙を書くなり將棋をさすなりし

年會だの倶樂部組織だのとの事を聽いたことのない田舍の連中と見えて、不得要領の色が見えた。彼等は九州の第十二師團の豫備兵で、年も相當に取つて居る。「九州は未單物だと昨日の手紙に云ふてよこしたが、此市は寒いもんだ、十二月頃には零度四十度ともなると聽いて居るが、大變だ、ニコライスクの戰爭にも出たが、敵がなか〱慘酷な事をしたから日本兵も其仇討をしてやつた。將校方は皆刀の試切をされた樣だ。進軍した時、糧食がなくて畑の瓜や玉蜀黍を食べたが味かつた。溫い下衣も一同に渡つたし、防寒具は充分です、昨夜この床で火を焚た處妙に臭いので何かと見ると、下がコルターで固めてあるものだから溶解したのさ、此大きな暖爐で火を焚くと、一日は溫かい、少しおあたりなさい」とて喃々と語りて側にあつた板を靴で折つて焚つけてくれたが、時間がないので辭し去つた。旅團長を訪問

に罹るのは懇な人だらうと思ふと、防寒具が充
あるとも見えない。
露西亜大將の特別列車はブラゴヱ市迄行くから、一
行つてもよいとの事であつたが、さうすると日
一週間もかゝり、浦鹽に先約もあるので、我等
丈は普通列車に乘つて歸へる事にした。車中最
軍人と二人の新聞記者の中に乘せて貰ひ、別に
もなくよく護衞されて來たが、軍人一同が烏蘇
人の區別なく、ドシ〱乘込む、二名の新聞記
近で下車して仕舞つた其後は、露人、支那人、
之は日本軍用車だとて、怒鳴つける、其中に
の惡い日本人が一名、三等の切符で二等へ乘込
大きな顏して横臥して居るので、其が大喧嘩を
し、車中の乘客が一度に聲の限り饒舌り出した
連は「何だ之は日本軍用車だから遠慮は入らぬ
るな」と聲援するから仕末におへぬ、餘り喧し

ぎである。其がお互に言葉が充分通ぜぬから、露西
亞語、支那語、日本語で我等には何が何やら一向に
解らない。加ふるに我等の切符にも少し間違があつ
たとて、今度は我等の方に車掌が來て、解らぬ言葉
でガヤ〱云ふ、其通譯を支那人がしてくれるが
此人は日本語がどれ丈解るか、我等の説明が露人に
は通ぜぬらしい。其を丁寧に若し間違があれば喜ん
で拂ふと云ふても、一向騷動が止みさうもない。又
其處へ上の寢臺に横臥して居る記者が怒鳴るし、空
氣は三十時間も煙草と人とで汚したものであるから
頭痛で苦しい。蠟燭がぼんやり點じた車中に汚
人々を滿載して居るのは、確かに避難民の状態其儘
であつた。我等の向側に日本服を附けた賤業婦二人
が、横着に足をゆる〱伸して休み、端に正裝した
溫厚らしい露婦人が小さくなつて、彼等の足に時々
蹴られて腰掛けて居たのは苦々しい限りであつた。

日本人の怨を買ふのも勿論である。今は日本あ露人も幾分か遠慮をして居らうが、平和恢撤兵でもした曉には、在留日本人は苦しむ事るまいかしら。今度の此經驗も貰いもの、一つた。廿五日の夜半十二時過浦鹽に着し、馬じ止を得ず、支那の苦力に手荷物を負はせて如く靜に家に這入り、白い清潔な床に横たは嬉しさは同じ經驗をした人の他は知る筈は

日の朝は又日本赤十字社病院に行き、脇夫人人とを紹介した。降誕祭には病兵の爲に色々等を兩夫人に石川理事より依賴されしも幸で看護婦等は外出する時間もなく、又市の端院から市街に出づる便宜もなく、只假に自動船でもあれば、一二人乘せて貰ふとの事、而一救護班が到着ともなり、四十餘名の看護婦

とも彼等慰藉と在留同胞婦人等とも心易く打集ひ、喫茶中談話でもなし得る場所が開始されなば、如何許りの祝福ならんなど考へて居る。

廿七日日曜日は、例の通り石戸兄の宅にて禮拜をした、此日より內藤兄の下に日曜學校を始め、九名の生徒が出來たとか、十時よりの禮拜に石戸兄の聖書の講義、內藤氏の奉仕の精神、小河增太郎氏のパレスチナの風景等のお話があつた。午後二時から日本人の小學校で講話會が開かれた、この小學校は尋常科高等科を通じて二百名の生徒が七名の教師に敎へられて居る。建物は古くて殺風景であるが、近いうちに改築されるだらう。露語を教へる所から露國政府の許可を得て居るよし、午後の集會は主に、父兄、姉妹との筈なりしが、來會者は槪して男子で、三笠艦の兵士も多く見えた。加藤姉は「昨今の婦人界」と題して日本婦人の働き、特に女子青年會は何

司令官も實に鄭重に長時間會見を賜はつた事難い。司令官は我等に何かせねば不可と勸告さ「是非何か仕事をせねばならん、もう日本に歸は早過ぎる、社交的なり、救濟なり、卿等の如、かせねば不可」などゝ奬勵された。艦内を隅迄、水兵の食堂、湯呂場、艦長室から大砲の運みせて貰ひ、日本では出來ぬ學問をした。其總領事の菊池御夫妻が親切に我等の爲、茶話會し下され、百餘名の來賓があり、露、米、支、國の外、セルビヤ人、佛蘭西人が一名づゝあつ米大使モリス氏の接待日の外に斯る國際的茶話なかつたとさへ人々は云ふて喜んだ。（十一月號戰時の外交官は多端である、特に浦鹽などで事であらう、しかるに我等如き者のためにも時思考と費用を充分に出してかく鄭重に優待され點は實に忝ない。是をかいて居るとハバロフス

て殘念であつたと云ふてある。此人は米國中央政府の役人である。これ等を推してもかの茶話會がいかに皆に喜ばれたかゞ伺はれる。

廿九日は最後の日であるから、仲々欲が深くて、色々と仕度事が多い、赤十字社に關連して見のがした事や、少々の用事をすることにした。相變らず石戸兄の自動車で用を達さして貰ひ、午後一時の船でロシャ島にある米國病院へゆく積で森夫人も同伴で埠場に來ると、埠場ちがひで乘損ねた。三時には看護婦の集會に約束してあるが、電話は通ぜず閉口千萬であつた。御詫びと森夫人の紹介の積で次の便船で先方に着いたのが夕方であつた。東京聖ルカ病院よりの看護婦方が親切にも夕食を御馳走され、蟹と玉子の煮付や、松茸の御吸物を彼地で戴くとは誰が想像出來やう。爰に其中の一人よりの手紙が來てゐるから拔萃しておこう。

ベリヤの孤島に河井先生と話が出來るとは思はざりし處でした。しばしの間を得て少し今の生活振りや、患者の樣子など御話し申考へ又有益な御訓も伺はれるとたのしみ朝は何時か何時かと御待いたしましたのに…の此晩秋、冬の物哀な此島にも陛下の御威今日の天長節を諸共に祝ひ奉りました。今共は庭先の巖頭に列して君代を合唱し萬歳陛下と日本國に榮あれかしと祈りました。祝辭は申に及ばず、チエックの「シヤポン帝）ヨイ、コンニチ（今日）オツチン（大相）ー（よろしい）」との祝詞は奇拔です。どの合すと握手しに來りまして、今更日本の國ことを深く感謝致しました」。

結ると聞いた海の夜風は最早堪へられない途は小蒸汽の中で、煙草の畑にくつぼられ

でも土產物を求めんとすれど、例の通り言葉が不自由と商店の遠いのとで、漸く御菓子屋に這入り、指さして露國風の菓子數種を求めたが關の山であつた歸宅て荷物をつくり翌日友人方に見送られて、又鳳山丸に乘り日本指して出發し敦賀に上陸したのは十一月一日であつた。日本は暖で景色は實に綺麗ですねと、船に弱り果てた加藤氏は俄に勇氣づいて獨言ごとの樣に幾度も繰返した。

△記念講演會

世界の果より果に散在せる女子靑年會が心を一つにして祈る可き祈禱週の一日を横濱女子靑年會では記念講演會に當て、田島進生を招じて、「汝一時も我と共に目を醒し居り能はざるか」と云へるキリストのゲツセマネの園に於て熱血溢るゝ御言葉を基として有益なる御講演を伺ひました。十一月十六日祈禱週最終の日に於て。

も早や十二月になつて、吹く風もいとゞ身に
様になりました、けれども此月はクリスマス
へてゐるので、何となく緩やかな心地がいた
、もうそろ〳〵銀座邊にはクリスマス装飾さ
るでせう。
ですね、昨年の丁度今時分でした。三日か四
だつたと思ひます、私は銀座の伊東屋で買物
それから日本橋の丸善へ廻らうと思つて電車
ますと、思ひがけなく○博士夫人に逢ひまし
、久濶でした……」
沙汰をして居りました」
、手前こそ、お忙しいでせうから」
、何しろお宅の方は、私のあまり往かない方
ので、遂ひ臆怯にいたしましてね」
、お掛け遊ばせ……」

丁度お隣りの座席が空いたので、夫人は私に座をおすゝめになりました、私は遠慮なしに腰をおろしました、夫人は私に
「先生は、いつもお忙しくゐらつしやいますか」
と言はれました、私を先生とは少々勿體なさ過ぎるしかし考へ様で、これでも日曜學校の先生だから、先生には違ひない、實は先生と言はれるのが嫌ひですが、
「はあ、碌なことは出來ませんが忙しく過して居ります」
「それは結構でゐらつしやいますね」
「いえ、……まあ、併し難有いと思つて感謝してゐます、それにクリスマスがもうぢきですから、またまた忙わしくなります、何んといつてもクリスマスは樂しみで御座いますねえ」
ところが夫人は、えゝ左樣で御座いますと仰しやら

そして
けれども、私はクリスマスが來ると悲しくな
るので」
になりました、そして早やお顔を曇らして
しやいました。
な夫人だ、隨分つむじ曲りな方だ、私よりも
つてゐらつしやると思ひましたが、お顏をの
悲とらしくありませんから、不思議になりま
私は何んと言つて良いか解らなくなりました
り仕方なく、
とゐらつしやいますか、……如何してまあ」
……」
、スが悲しいなんて私には初耳、なぜだか其
りたくなつて、氣になつて、たまりませんから
それは如何してゞすか、お話し下さいませ
しい、無遠慮な[illegible]とおしやりまして、夫人は

「え、それは私にとつて非常な悲哀でもありますが
また、私の信仰の生涯にとつては實に大なる恩寵
でもあつたので御座います」
とお答になりましたから、私は安心いたしましたそ
して夫人は尚ほもお話しを續けやうとなさいました
が、その時、「チン／＼日本橋、白木屋呉服店前」と
いふ車掌の聲がしましたから、驚いて起ち上り
「夫人、では其中に伺ひますから、その時お話し下
さい……」
とお願して、お別れいたしました、丸善の前で降り
るのを一つ乘過したのです。
それから二十日計り經つて、多分二十三日午後、夫
人のお宅の御近所にある紡績會社のクリスマスのお
話を頼まれて、出かけた序でに、夫人を訪問いたし
ました。夫人は機嫌よくお迎え下さつて、次の樣な
お話をして下さいました。
何故クリスマスが悲しいか、不思議でお思ひになる

、教會のクリスマスは其晩だつたのです。そ
に無論教會に出ることも出來ませんでしたし
かりでなく、その晩のクリスマスの準備のた
どんなに母の心を痛めさせたか解りません、
私が親不孝だつたので御座います。
命は矢張り、それだけだつたのでせうけれど
母がそれを縮めたやうな氣もして、ほんとに辛
す、それで、母が亡くなつて、私のあてにし
クリスマスに出られなくなつたのも、丁度神
私をお懲しになる爲めだつたと思ひますの。
のは、其クリスマスに私は、緒方さんの奥さ
合奏する筈だつたので御座います、私はヴアイ
で、奥さんはピヤノ、尤もまだ奥さんではあ
せんでした、羽子さんと仰しやるのです。
はその頃、まだほんとの信仰がありませんでし
信者とは名ばかりで、クリスマスも何か音樂會

て會衆を驚かさう、會衆に褒められたいと思ふ計り
で、エス樣のことなんぞは少しも考へてゐませんで
した、そして毎日お稽古に夢中になつたのです。
その頃、母は煩つて居りました、けれども其事さへ
も氣に留めないで、羽子さんのお家へ伺つて二人で
お稽古をいたしました、ピヤノは私の家にありませ
んでしたから、どうしてもねえ、私の方から……、
それに母も病んでゐますから、家で合奏するわけに
も參りませんし。
私の心は、あの講壇の上に立つて滿堂の會衆の喝
采を浴びるのを目に見るやうに想像し、それにして
も羽子さんよりも、私の方へ餘計に聽衆の視線を惹
きたい、それには、あの帶に、あの着物、いやあの
方をと、いろ〳〵心を使つて居りました、何と淺ま
しいことでせう。
母は私に、そんなに一生懸命にならないでも良いだ

少しは側にゐてお呉れでないかと申しましたはなんといふ同情のないお母さまだらうと忌ひましたの、そして其時は「ハイ」と申しま一寸は側に居りましても、ほんの形式だけだつたです。

楽しみにしたクリスマスが近づきました、もう今晩といふ其日になつて、母の容體が惡くなつて、敢えなくなりました、それが爲缺席しなければならなくなり、家にゐて淋し思ひをして母の遺骸をまもらなければならぬた、私はどんなに殘念だつたでせう。は、羽子さんだけ獨奏なさいました、私は自音を羽子さんに奪はれた樣な氣がいたしましれてあんなに落膽したことがありませんでしの亡くなつた悲哀の方を第二にしてゐたので榮にあこがれてゐた私は、斷して母を失ひ

母は戻つてまゐりません、浮き〳〵した娘心に果敢なきことのみ夢みてゐた私は、次第に亡き母のことを眞面目に考へるやうになりました。

そして泌み浸み、親不孝の罪を感じました、又私の心に眞實神を畏るゝ心のなきこと、主キリストの降誕や十字架に就いて感謝の念のないことを覺りました、あゝ私は罪深いほんとに罪人の首領だと感じました。

幸にも、此等の事によりて、私は目ざめて信仰に入り、不束ながらも主キリストを愛し奉る者となりました、世の中にはクリスマスを唯お祭り騒ぎや、華やかな娯樂會のやうに思つてゐる方があるでせうけれどもクリスマスの意義は左樣でなく、罪の赦しと十字架の御救とを味はなければ解らないと思ますもう二三日で母の紀念日も參ります、悲しき思出の日が參ります、しかし夫と共に、私は主の御聖誕をば感謝の涙を以て祝つてゐるので御座います。

私は此話を大なる同情を以て聽き惚れました。あゝクリスマス、その眞正の意味を世人に知らしめるのは私共の急務であると思ひながら、間もなく私は

袖山愛子

太の國に旱魃の主が痩せこけて、眼も何も窪萎びた木の葉や、褐色になつた草の間をウロ匍匐ひ廻はつて居た、時は夏の眞盛りで、太山に直射し、或るかなきかの風の喘にも灰色捲き上がつて、家畜の群は水の涸れた川底をげに眺めて居るのであつた。旱魃は何處か水處はないかあれば渴してやろふと這ひ廻つて居た。彼は大きな石の井戸側に腰をかけて中いて見た、平常は緣迄も滿々と湛へられた水は底の方に少量の水が殘つて居た、それも塵どろ〳〵に濁つて居た旱魃の主は井戸に向ひ「お前は何時迄まご〳〵と生きて居るのだ、さ涸れて仕舞へ、雨も有難い事に茲二三ヶ月間ない事請合だ、愉快〳〵」と獨り喜んで居た

涸れて行くのを旱魃はさも滿足げに見詰めて居た、「今夜はこゝで己れとお前と睨みつ子だ、マアさう急ぐにも當らない、ゆつくりとお前の水が涸れて行くのを見てもう一度のぞいてやろう、そうすれば愈々お前は此世は御暇さ、」

旱魃は井戸側に腰を掛けて居た、其夜は今迄にない樣な蒸暑い晩であつた、獸は家畜小屋から絕えず苦しい呻き聲を發して居た、時には風もないではないが何の役にも立たない、丁度焰を吐き出す怪魔の翼の下に被ひかぶされて居る樣であつた、空には星が鮮かにさえて新月は靑い光を灰色の小山の上に投げかけて居た、旱魃は月の光に、遙か彼方の方から列をなして進んで來る隊商人の一隊を見た、彼は此長い行列を見て心の中に非常に喜んだ、渴き切つた旅人が漸う井戸に辿り付いて見れば井戸には一滴の水もない、失望した其顏はどんなだろうと思ふとも

く堪まらなかつた。

な地平線上に見える山の上から駱駄がノッサつて來るのが見える、その形狀も普通のより、大きな荷物を事もなげに輕々と運んで來かも平地を歩く樣に山道を樂々と下りて來る見える三疋は毛並の美しい駱駝には立派な鞍て、高貴の人とも見える騎士が乘つて居た隊は井戸に着き、駱駝から下り、傍に居た挨拶をした、見れば立派な衣を着て頭巾には拔き出して來た樣な星がその額の上できら光つて居るのだつた。旅人は早魃に向ひ、に遠國から旅して來た者です、これが有名なのであるか、どうぞ御存ならば敎へて頂き度

處は無愛想に、

ではまあそう稱んで居るがね、然しこの井戸涸りてゝにはなくなるだらう、これは今夜限仕舞ふ筈だ、己れは井戸といふ井戸、泉とやんと心得て居るのだお望みなら話して聞かせてやつてもよい」とさも得意氣にいつた。

「ではどうぞ旅の慰に一つ聞かして下さいませぬか」と旅人等は皆熱心に意地の惡い早魃の周圍に坐つた、早魃は井戸側を演壇と見立て次の樣に語り出した。

「昔ユダヤに名高い三人の賢者が住んで居た、元來此國で智識は非常に尊まれ、人々から厚く報酬られるのが例であつたが此三人にかぎつてそうでなかつたそれもその筈、三人の中の一人は大層な老耄で、一人は癩病患者三番目の者は脣の厚い黒奴だつたから市民共は一番目の者をあんな老耄に何が出來るものかと耳を傾ける者はなかつた、二番目の者には癩病が傳染ると恐いからと寄り付く者はなかつた、三人目の者をエセヲピヤの黒奴に智識などあるものかと見くびつて居た、すると此三人は同病相憐むの格で互にその不幸な事から中がよくなつて晝間は一つ神

すんだが夜中に年長なのが目を覺まして四邊すや否他の二人をも搖り起した。の御陰で靑天井の下に眠る事が出來る、起ろ天を見なさい、」三人の賢者は遙か遠くの高い不思議な陰の樣なものを見付けた、玉の樣な付くに從つて光輝も增して來、薄バラ色の光四圍を美しくキラ／＼と輝いて星の中の星ののを形成へた、この異變を見た三人の賢者はれは大能の王が地上に生れる印だなと覺つた互に、
は今夜生れた王樣の御兩親の許に行きこの不る印を申上け樣ぢやないか、そうすれば黃金或は金のくび飾でも下さるかも知れない。
互に旅仕度をして出立した、やがて、彼等は恐れる渴き切つたはてしない荒野の近く來たの砂の上に見なれぬ星が一道の光を放げかけ

になつた王樣の事を色々と想像しながら荒れた砂漠を歩み通しに歩んだ、王樣は黃金の搖り籠の中に靜かに休まれて寶石の玩具を弄んで居らるゝ事だらう如何いふ風に父母王陛下に拜謁し樣か、何といふて天がその王子の將來の權力や美や喜びがソロモン王の榮華の時よりも勝れて居るかを豫言したかといふ事を申上げ樣、彼等は神樣が特に其印の星を御現はしになつた事に付ては非常に誇らしく感じて居た、其夜中星は彼等を導き、翌朝他の星が皆影が薄くなつても其星丈けチャンと殘つて居て荒野を照して居た、彼等はやがて泉のある、菓物の熟した木のある沃地にと導かれた、かく星は彼等を饑餓に迫らぬ樣甘く導いた、茂つた草地や石路、砂塵の立つ路を避け、いり付く樣な日光や暴しい荒野の暴風にも遇はぬ樣に導いた、三人は口々に「神は我等を保護し私等の旅を幸し給ふ、我等は彼の使なり」といひ合つ

奴等も段々と今迄通つて來た荒野の樣に其
さんで來たんだから面白い。
は神の使節である、王子の兩親陛下がたとへ
ゆるに駱駝に一荷の黃金を積んで與れても決
ひとは思はれない」など、吐て居つた、段々
彼等を有名なヨルダン川の方へ導いて行つた
或夜星はユダヤの小山の上にあるベツレヘム
町に彼等を連れて行つた。
は種々と王の宮殿らしいものを見付け樣と探
んなものは一向に見當らないで、然も星は薄
い路傍の岩屋の上で止まつて仕舞つた、かす
が岩屋の戶の隙間から流れ込んで母親に抱か
らかに眠つて居る赤兒を照らして居た。
人はたとへ星の光が赤兒の頭の上に冠の如く
を輝かして居るのを見ても岩屋に入る事を躊
彼等は心の中にこんな赤兒に未來の王國の
言しに來たのではないと思ひ、彼等は其儘岩

我々と同じ樣な乞食の餓兒を探しに態々荒野を越えて來たのか、こんな子は成人してもこの山の中で羊の番をして居るのが相當だ、何で出世などするものか」

旱魃は話しながらクス／＼獨りで笑ひながら話をつゞけた、

「三賢人が元へ引返して間もなく彼等は道に踏み迷つて仕舞つた、それで再び天の星を探したが何處へ消えたか再びかげも形も見えない、

星が見えなくなると直ぐ神樣に對して罪を犯したといふ事に氣が付いた、すると秋の日に有り勝な暴風になつて、大粒の雨が降り出して來るし、稻妻はピカ／＼はためいて來るし、彼等は恐怖に全く戰いて仕舞つた、彼等の心も從つて謙遜になつて來た、其から三日三晩彼等は拜すべき赤兒を探して歩いたのであつた、然し星はすでに姿を消して少しも見えない、彼等は迷に迷ひ失望落膽して三日目に此井戶

…のをし…居る…東洋から彼等を…迄連れ
その星か寫つて居るのを見た、空にもそれが
て居て再び彼等を又ベツレヘムの岩屋に導い
た、そこで彼等は始めて赤兒を拜して口々に
、
は彼等の頭に手をおきこれを祝された、彼等
などから世界の如何なる君主からうくるより
の御返禮を受けた、其譯は、老人は急に若く
癩病は癒される、今まで黒奴だつた者は急に
なつてしまつた、實際彼等は輝くばかり立派
たといはれて居る、それから彼等は各一國の
なつた。
…の話はそれで終つた、三人の旅人は旱魃に
は實にお話の上手なお方だ」といつてほめた、
一人は
どうもおかしいぢやないか其星を示して呉れ
…のある井戸に對して何にも御禮をしないとい

…の人は
「人類に此幸福を思ひ出ださせる此紀念するべき井
戸がなくなつてしまへば、幸福になると傲慢になり
つまらぬ虚榮に有頂天になり易い人類は謙遜の底に
深く眞實の幸福を求める事を忘れるだらう、」
三人目の旅人は
「どうも天國の住む者が此世に居る者よりも恩知ら
ずであつてよいか」と云ふた、
其三人の言葉を聞いて居た旱魃は急に奇聲を發し
て飛び上がつた、彼は此三人の旅人は誰であつたか
漸く分つた、彼は狂つた人の樣に逃げ出した、彼は
恐らく此三人の賢者が下僕共に命じて駱駝につけて
來た荊袋の口を解いて涸れかゝつた此憐れな井戸を
樂園の水で滿たしたのも見ないで逃げたのだらう。

ギョン夫人傳

――ウフハム氏に據る――

森田松榮

する慈善、救濟、傳道と共に極端苛酷と思での抑制は彼女自身に加へられた。何でもしておけず、徹底するまでやり拔く彼女は能に對しても、それが全く新らしい生活にとなるまでそれに難行を加へやうとした。性自然の欲求を全然斥けたのではない。克ちし後、全き淨聖を求むる人は、我らの天性の他の部分に亘り、彷徨する智性、所る感情、濫りなる意見を征せんことを努むの手を切り、右の眼を拔棄つるに等しき峻制の行爲はこゝにも亦行はれざる可らず。と祝福なくば全く無力なる人も、祈禱と信にして敬虔なる、反省の精神に伴はるゝ時功を期し得べし。といつて彼女は進んで之

行もすべて、感情、願望、意思の一切を擧げて主キリストのそれと一致せしめ、肉に於ても靈に於ても全く主のものとなり終りたいとの切なる願から發したので、主の贖の寶血の他に、此らの行ひのうちに勵を思ふことなどは、彼女の心に露ほどもなかつたのである。

彼女は忠實に二年間主キリストの婢として盡したもとよりサタンの誘惑は無かつたのではないけれども、彼女は勇ましく信仰の戰を續けて、まづ連戰連捷の姿であつた。然しサタンはちやんと人を見て作戰する。彼女は肉慾の誘惑に敗ける人ではなかつたそこで、彼女の智力、品性の誇にサタンはつけ込んできた。彼女は知らずとも、それはまさしく彼女の弱點であつた。サタンは、知らない間に彼女の胸へ

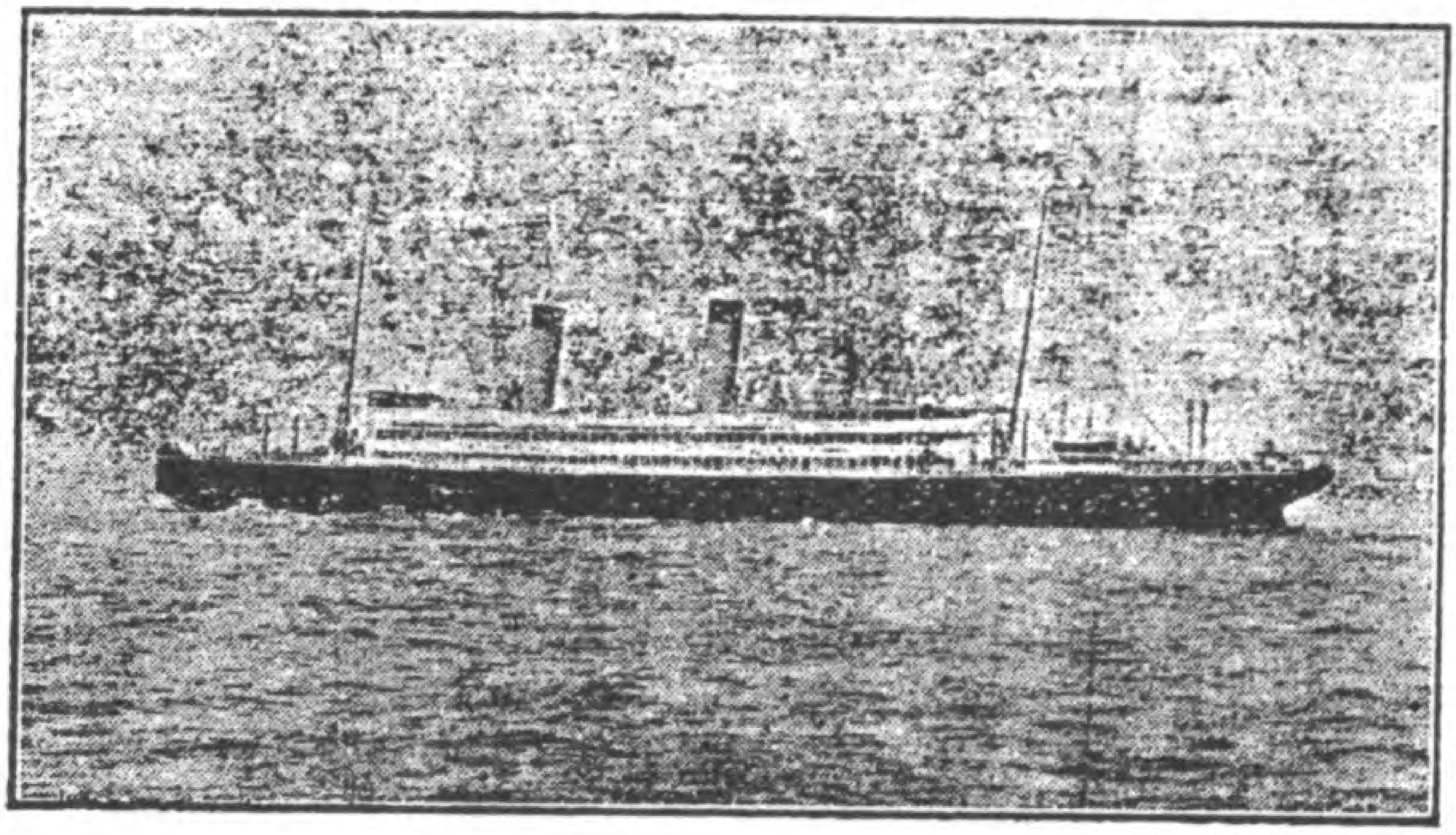
ならないのか。趣味と快樂との此時代に、一理智に目醒めてゐる時に、眼の前にはたゞ歡喜ばかりがあるときに、私の眼は閉ぢて、耳はで、唇は默つてゐるといふのは、必要なことか、かつ、合理的ですらもあらうか。かうし外部からもそゝり立てたのは、當時の巴里のであつた。

女の地位と富とは、彼女の身邊に自然に人を集加へてその才とその端麗な容姿とは人の心をうにはおかなかつた。人々が面と向つて彼女に嘆賞の聲、強烈な言葉に彼女は滿足を感じたの必要や健康の爲に、外出散歩にもよく出かれども、其心の底には都大路の多くの人々かに向けられる賞讃、羨望の眼を感じるよろこたい念があつた。自分は慈善を「片眼」でしてといふ苦みも感じた。

は幾度か巴里を去らうとした。然し彼女を牽に苦しんだ、內心安息なき寂寞と悲哀とに苦しんだ而も外界から自分をとりまく歡樂から思ひ切つて身を引きはなし得なかつた。

彼女の夫は、世界で一番華やかな流行の中心地である都で、時めく人々の間に、妻が社交上の女王の如くもてなされるのに非常な喜を感じた。彼は若妻が勤行の生活から歡樂へ來たことを滿足した。然しその日はいつまでも續かなかつた。サタンの巧妙な係蹄は彼女を捕へて了ふことは出來なかつた。彼女は巴里を去つて長い旅に出たいと申出した。夫は之を許すと共に自分も同伴しやうと云つた。これは一六七〇年彼女が廿二歲であつた。

夫妻は身分に適はしいだけの調度、供人を以て旅に出た。旅行した地方には運河の完成によつてギャン家の名は一般に知られてゐたし、殊に都をはなれるに從て、富や美貌はなほ人の目に着くものであるそれに彼女の才は誰をもよろこばせずにはおかなか



本社 東京市麴町區永樂町一丁目一番地（電話本局四〇八〇、四〇八一番 四九六一、一五三一）

營業所 横濱市山下町四番（電話四四〇〇、四四〇一 四四〇二、四四〇三番 四四〇四）

出張所
- 神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング
- 上海四川路ノース、チャイナ、インシュランス、ビルヂング
- マニラ チャコビルヂング、桑港、マーケット街六二五、マーチャンツ、ナショナル、バンクビルヂング

北米航路（桑港、布哇、横濱、神戸、長崎 上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候溫和、海上平穩なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量 二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同 二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同 二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同 二〇、〇〇〇噸
日本丸	同	同 一一、〇〇〇噸
波斯丸		同 九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱 ホノルル、桑港 羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量 一八、七〇〇噸
紀洋丸	同 一七、二〇〇噸
静洋丸	同 一四、〇〇〇噸

GINZA. TOKYO.

TELEPHONE SHIMBASHI 2334.

◎歐文和文處方調劑
◎歐米有名賣藥各種
◎舶來化粧品各種
◎醫療器械各種
◎舶來滋養品各種



東京京橋區銀座尾張町一丁目一番地

銀座藥品部

（舊聖路加藥品部）

電話新橋二千三百三十四番

弊店は正確誠實迅速を旨とし凡て責任を以て販賣致し候間何卒御用被仰付度候

棄て去つた娛樂の集會へも彼女は良心の苛責
の、一度出席した。
旅行中、我は多くの訪問と賞讃とを受けたり
忠實なる苦悶を既に經驗せし我は虛榮の感情
甦るを知りぬ。奇しや、凡ての苦痛を味ひ
に、我は人の賞讃を明らかに其愚を認め乍ら
り。」
のまゝの性は、公衆の人氣をよろこびたり。
恩寵の生は、我にその危險を見せしめ、之を
あたり。あゝこのとき、心は如何許の苦悶を
かよ。恩寵と自然との此鬪が、我に殘したる
深かりき。我立場を更に危くせしは、彼らが
わが青春と美とを稱へしのみならず、我德を
となり。されど我は之をば受け得ざりき。
らには恥づべきこと、弱きことのほか何物も
一切の善は神より來ることをば、我はあまり

もわが肢體に他の法あつて、我心の法と戰ひ、我を
虜にして我肢體のうちに居る罪の法に從はするを悟
れり」(ロマ書第七章)常に罪を犯し常に悔んでゐるのが我々
の運命なのだらうか。墓へゆく迄は罪を犯すことか
ら逃れる希望はないのであらうかと、彼女は考へた。
此時彼女に最も願はしい信仰の友否指導者が與へ
られた。これはベネデクト派の修道院長でジユラン
ジユといふ婦人であつた。彼女の夫の姉妹が此女院
長の世話になつたことがあるので、彼女は女院長と
は數年前から知り合つてゐたが、此頃また訪れて、
信仰上の話をした。現世生活の誘惑の最中にあつて
すらも、人は全然、神に生きることが出來るといふ
主義を、自身の經驗から奉じてゐた敬虔で理智にも
すぐれた女院長との談話や奬勵は、彼女を大變鼓舞
した。
此時はからずも彼女は興味のふかい事件に出逢つ

利から歸つて來てからの昨今は中々多忙であ
中央委員會は九日にあり。引續き十日の夜分又
員丈集まつて協議をした程多端であつた。十
夜は横濱女子青年會が音樂會を催し中々の盛
何時もながら同所の委員方の働き振りには敬
。十三日は廣岡かめ子夫人の御宅で、卅名許
人が集まられて、山本邦之助氏の歐米慰問の
河井の西伯利物語などあつた。十五日は下谷
松寺で、慈善市が催された。其主催は富士見
會で、會堂新築資金の爲めと貧民に冬着を廉
との兩目的と以つて開かれたものであつた。
午後の二回に門を開け潮の如くに押し込む買
規律能く取扱ふ事は、如何なる名將でも、到
能であらう。其夜京都に出立したが、明日は
待ちたる東京女子青年會の園遊會であるのを
ゝ行くのも、中々辛らかつたが、然し又關西

の人々に會ふも非常に嬉しかつた。
京都はミス、ページが來春日本へ再來さるゝ迄は女子青年會を創立しないのであるが、其準備として西洋幹事二名は、日本語研究傍ら同市に住居して、林あさ子氏が彼等を教へ、又創立の下調へ抔どをする任に當つて居られる。例の感冒が流行で、京都の知人は多くそれに犯されて、同志社如きも、永く休校であつた。ミス、デントンが再び學校に歸られたので、まるで校內の空氣が一新された程生氣滿々たるを感じた。十六日の日曜に原田總長の御鄭重なる紹介で、校內の教會堂にて說教を許され、其後外國人の禮拜にて再び其特典を與へられ、午後は女學校の職員生徒方に西伯利の物語に時を取つた。何處も同じく寄宿舍の必要を感ずるので、我等は京都でそれに着手しやうと計畫して居るが、幸ひ適當なる家を與へられたから、これより資金を作らへて、其設

らねばならぬ。京都には多くの同情者もある來春には必ず活氣ある支部が、組織さるゝ事んで居る。洛陽の朝景色に氣が取られた理由か、あまり話に身が入つて、八時の汽車に乘たが爲め、神戸に着いたのは十八日の午前十であつた。雨とは云へ、幹事の住所邊なる態色は誠に美しい。住所の門に神戸基督教女子假事務所と鮮かに記された看板は、働人の用なるを表すに餘りある。門內に入るとミス、ク、ミス、ニクソン等と藤田とき子、吉良う氏と日本語の先生なる小澤ふさ子氏とが、滿を湛えて歡迎されたので、慣れぬ車屋に怒ら分も直ちに忘れてしまひ、「さあ何をするのと尋ねれば「これから直ぐに市中のカフェーき新聞記者達と會食するのです」との返事、の如きは、既に〳〵靴を穿き外出せん許りの

てゐた。「隨分見苦しい場所ですけれど、一番便利な處を選んだので御氣の毒ですが」と日本人以上の叮嚀な挨拶でミス、タピングが挨拶されると、「午後は此二階で委員會を開くのです」と藤田氏が附け加へる間もなく六人の記者が批評的の眼を持つて入つて來たが食事が進むに從ひ、皆打解け問ひつ答へつ、神戸市に女子青年會設立の必要や、西伯利の話で花が咲いた。記者達は皆興味を持ち、實に親切に我々の爲め便宜を計るとの言葉は、非常な喜びであつた午後二時半の創立委員會と云ふに、多くは時間前に來會されたので、神戸の婦人は他と違ふとの感を與へた。來會者廿五名で全市のクリスチャン代表的の婦人方を網羅して居る。一同活氣に滿ちあふれ、何事でも進んで爲さんと云ふ氣分を誰も感ぜずには居れなかつた。議長に長谷場まさぢ夫人が推されると、我々の間に有り勝ちな時間の取れる辭退も無く

指名委員が集つて十五名の候補者を出し、當選されたは左の通りである。會長長谷場まさ子、副會長塚本ふじ子夫人及ミセス、スクラン書記大芝やす子夫人及野々村敏子夫人、會計さ子夫人で誰一人辭退さるゝ事も無く、お互けて致しませうと快諾されたのであるが、斯度い委員會に日本では出席した事は無い。こつても神戸婦人の意氣込が他と異なる事を現居る。神は必ず彼等を通し御榮光を同市に輝ふ事を疑はないのである。議事の進行は誠にいほど早くて神許し給はゞ近い中に青年會館する爲め、募金を開始せんとの決議が滿場一過した程である。今や戰爭終り、平和の曙に和の使と云はるゝ婦人が、然かもクリスチャが、女子青年會を創立し、其建築を以つて平念となさん計畫は、何たる快事であらう。之戸の婦人が信仰あり、希望あり、努力ある事

主催の社會研究會が、賀川氏の許に開かれた。椅子が不足で屢々外から持つて來る程大勢の人が集まつて、熱心に教を受けた。此會は八回を以つて修了すると云ふ事である。幹事等が既に此研究會と云ひ、聖書の組、英語の組、ビズネス、ガールスのクラブなど市中の諸所に於て開き、良結果を擧げて居るのを見ると、僅か二ヶ月前に始めた會とは思へ無い。翌日神戸女學院の講堂を借りて、公會を開き、西伯利の報告をし、又午後には外國人間の中にも同樣な集會が開かれた。神戸女學院内の青年會幹部諸姉が吾々幹事五人を招き、親子丼と暖かき茶碗蒸との饗應は、我等の勞を慰するに餘りあつたが會長杉みさを氏が風邪の爲め、缺席なりしは殘念に思ふた。廿日は大阪にて又諸姉の努力と同情とに勵まされた日である。星野夫人の御宅で、四人の重な委員とミス、ハード、山本琴子氏と河井幹事と共に集まり會の方針に就いて面白く協議したのであるが、此處

た今の時機を失しないで大阪女子青年會館の
集めたらばとの協議が起つた。我々は斯く何
つても、熱心な婦人が善き事の爲め協同し、
る丶を見て非常なる奬勵を得るのである。其
とは云へ、市内の七校を代表されし姉妹が會
館に集まり、親しく西伯利の事や戰後の經營
就て相談話する時を得た。大阪へ來て何日も
るのは、能く樣々の人々を集めらる丶事であ
ば公私立の學校、諸會社、郵便局、工場等
された姉妹が少數とは云へ必ず事務所に出入
着である。今度特に感じたのは、會の憲法や
の方針などが、實に能く出來て居て、日本
時を此點のみにても指導する事が出來る。幹
心と委員等の同情等が是等を通じて鮮かに
時の感冒は種々な悲しみを我々の中にも來し

梅花高等女學校にまだ青年會が出來ない時分卒業さ
れた許りの令孃琴子樣は、遠い濱寺から一週一二回
は必ず學校に來て、有志者を集め、聖書を教へ、親
睦を計られたが、それが同校の女子青年會の土臺で
あつた。御父君は大阪に於ける知名な實業家で、青
松白砂の間に立てる濱寺の御宅は、御殿の樣に美し
い、さりながら琴子孃は常に質素で淑やかで、誰も
一見して、彼女が大家の令孃とは思へぬほど謙遜で
あつた。十月の末、東京に在學中なりし令兄の感冒
見舞の爲め母君と上京され、令兄が永眠されし後數
日又琴子孃も神の國に歸られたのである。大塚家に
は最早子供は一人も殘つて居られない、御兩親の歎
きは如何の位であるか察するに餘りある。然し神を
信仰さる丶家庭故、又此際憂の淵に沈まる丶事なく
天よりの光明を認めて、御榮光の爲め働かる丶事を
信ずるのである。「此度の戰爭で子供を皆無くした家

れないものである。他梅花高等女學校の杉野つね子氏も俄かに亡くなられ、これらは今度大阪に行つて受けた悲しみのである。東西の諸姉よ御自重あれ。

藤正子氏の母堂が永らく病床に在られしが、永眠されたとの報を受け、歸京し訪問すると、正子氏は此上なき悲しみの中にも、今迄姉君と共に充分の看護を盡されし後なれば、神の御旨に任せらるゝ心が表はれて、痛ましくも又美はしく見あげた。女子青年界の編輯を喪中にも尚續けて其勞を取らるゝ職務に忠實なる只々敬服の外は無い。此十二月號は斯る深刻なる悲しみの日に忠實なる姉妹の手になつたことを讀者に記憶して貰ひ度い。

諸所に散在さるゝ姉妹方の同情と後援とは事務所の机上を堆高くして居る。思ひがけず新潟の山田きよ氏から新潟組合教會婦人共勵會からの寄附として西伯利慰問事業に宛てん爲め、金三拾圓を寄附として書雜誌五十九册を生徒の若き姉妹方の同情だとて送られた。外山信子氏は永らく病床にあらせられ、未だ全快でもないのに、本會の昨今に同情を寄せられ、金三圓を事務費にとて寄附される。其他前週の園遊會の金が諸所より事務所に屆けられる何と青年會は幸福な團體ではないかしらと、考へずには居られない。世界改造の手始めとして神が我等同胞姉妹を使ひ給ふ樣に思はれ、勇氣が加はるのみである。キリストの仰せられた樣に、眼を擧げて見よ、田は熟きて穫時になれり。播く者と穫る者とは共に喜ぶ可き時機に相遇して居れば、お互ひ立場〳〵に於て、神の働人として價値ある者にならん事を努む可きである。

○杉野つね子。十一月中俄かに逝去。

○粕川あや子。鎌倉小町に轉居の由。

○ミス、ペレー。新幹事の同姉は毎週一回づゝ英語の聖書女子青年會歷史を有志者に講演さる、希望者は直接同氏に申込まれたし。

○本間はる子。米澤市にて本誌の愛讀者なる同氏は流行感冒にて令兄を失はれたり斯る苦痛より益々信仰を高めらるゝを感謝す。

搖籃の傍より

若き母

と憂懼、望と不安、さうした名狀出來ない想が〳〵心に戰つてたゞ熱い祈に過した幾月の後、人は神より托され、此の世の生を初め、私はふ名をつけられました。

屈めてとぼ〳〵歩む老いた人を見る時、將來るある嚴かな警告を受けると同樣に、私らの來た道と目の前にまたくり返して居る小さい者の生活に深みと嚴肅さとをもたらしました。

汝に感謝す、われは畏るべく奇しくつくられ汝のみわざはこと〴〵く奇し、わがたましひつばらに之をしれり」

ではたゞ眠るものとばかり心得て居つた深夜れる靜寂さでございます、かうした時愛し子をひしと胸に抱いて居りますと爭多く騷しい世は、いつの間にか遠く離れて世の姿は消えて、神の優しい、溫い御愛にしかと包まれて仕舞ひます、懷しい樣なうれしい樣な想は衷に流れて何かなし淚ぐませます、そしてこんな人をもゆるし愛して行けると感じますあゝ、世に住むすべての人は一度は、こうした母の心に抱かれたに違ひない、人の世の下に流るゝものはヤハリこの愛の流れではないのでせうか、仰いで壁間のラフアエロの聖母とみどりごエスのうつしゑをみれば、やはり抱き合ひながら神の愛に浸るかの如くに、笑むで居られます、世を救ふべきその御子をしばし托された聖母の御心は如何に謙遜な敬虔な歡喜と、その重い責任とに戰ひた事でせう。

我心は、あまつ神を、をろがみ

わがたましひ、すくひぬしを

めぐみたまへ　うれしさ
名はきよく、おほみわざは、かしこし
代々にたえぬ、みいつくしみ
いつくものぞ、うくべき

ふた聖母の御心はさこそと御察し出來ます。
に愚かな凡人を親と呼ぶ子の將來に、榮光ある
的の徑路を俟つ事は出來ない、たゞ迷い深い親
もより明かに神を見て、その御わざをこの世に
に行ふものに、ぜひならせて、いたゞき度いと
夕に祈ります、愚かしい親も根限り精一杯努力
さきの時代の人より一歩でも進みませう、我子
の親を踏臺として、もつと〱進むで欲しうご
ます。

の心をはてなく踏みにじつた、古今未曾有の戰
　嬉しい事に、一まづ終つた樣です、激烈な、
の苦しみのあと、新しい世は生れました、うか
と私共も道草して居られません。今年のクリス

側には彼は母の願も知らぬげに　小さな搖籃の中で
スヤ〱と眠つて居ります、時々夢現つに嬉しげに
微笑むは何か美しいまえの世の夢でも見て居るので
せうか。

園遊會の記

平岩末子

天鷄一聲海東の空に茜さす旭日を望み得たるが如
き想ひする休戰布告の翌々日――千九百十八年の十
一月十六日の朝澄み切つたコバルト色の大空は平和
の曙光を隈なく湛えて莊麗なる朝野の表面を見守つ
て居ます。

ルナンは云ひました。「空間の永遠の沈默が我を恐
れしむ」と。あゝ宇宙の此沈默、恐しき許りに嚴
なる沈默にこそ我々人類は冥想の歡樂境を見出すの

ませう。戰後の國民教育、戰後の婦人問題、思ひは思ひを生むで心は現世を離れようとす天蓋の青雲を搖り落さん許りに樂隊が響き出た。時計は將に開會の一時を指す。小笠原伯門前に立て掛けられた東京基督敎女子青年會善大園遊會々場と云ふ立札は稀に得た小春日家團欒の散策の客を招いて居ます。の殆ど全面とも云ふ可き廣々した綠の芝生に悲から這入つて來て光晴々した氣持がしますぐれば奥深く續く大木の森！ 言葉あらば幾の人の世の悲劇喜劇を語るでせう。燦爛たる光は木々の梢から洩れて艶麗端麗清楚、其趣どりなる、貴き佳人達の髮飾りに照り映ゆる。單調なれど日本人の耳には聞き馴れたる和れて始つた手品に視取れて、「かあちやまおかね」と云ふ可愛らしい御聲もきこえる。四間

三曲合奏の尺八は測る可からざる天地の幽玄を語るかの如く、三味線は高く琴は床しく日本趣味の人々の胸底の琴線に觸るゝ調べを殘して御山獅子の曲が終るや、百面相の表情術の面白さ、軍服姿の威儀儼然たるカイザル皇帝に面會したり、花咲老爺の笑み崩れた童顔に接したりするのも一興でした。次に坂本富岳の一席の講談をきくとて洋館のヴエランダを講壇と見立てゝクルリと向き直つた聽衆がもとの向に歸つた時には何處からともなくピアノが鳴り渡つて居ました。舞臺には愛くるしい空色の眼をパチ〱させた西洋の男の子達が十人許り鳶色の衣裳を附けて今しも演じようとして居る野外劇の題は「さる女王の驚き」とかいふ事です。

昔々或日の事、不可思議郷の住人一寸法師は同じく隣りの不思議の國に住む小天狗を訪れる事を思ひ立ちました。小人は「我等の住みかは樂しきぞ、こ

思の情を抑へながら一念陛書の眼を曝くる邪たる趣、高きも低きも玲瓏たる人格の氣高さはして居ります。天狗の女王は珍客を迎ふ可き此日に不幸か幸か出て留守であつたのです。女王が宮殿に殘した子達は一寸法師の若人達に訪れられた嬉しさに歸ぐる無邪氣の歌聲は聞く人の愛を唆らずにはせん。白き薄絹に金銀の星を鏤めた其粧にはの風情があります。四隣の秋の空氣は清冽凛と歡樂の胸臆に徹します。爽かな靈光が自然と人心底に漲つて居ます。幼兒幼女等が歌ひ歌つて去つた後には悲劇が起りました。朗かな子守歌はれて深き眠りに落ちた女王の侍女は寶の室の惡者に盗まれたのですが女王の還御の時に臨むの盡の自白を潔よくした爲に却つて刑を免れたしなく其鍵の發見の刹那、此王國には更に新しの箱さへ增し加つたと云ふ喜びの驚愕の一大盛

しました

斯くて廿五分の休憩を今か〳〵と待つて準備された和洋兩風の模擬店の賑ふ時が來ました。そこへに立ち交る貴顯の紳士淑女方の談笑は花爛漫の春の園遊會のそれとは一種變つた情調が流れて居ます。秋は實に人をして「眞」に近づかしむるの時、角帽の學生も丸帽の青年生徒も崇高なる眞摯の人士として仰がれました。萬緑の雄大な景に唯一の花を咲かせた白薔薇の花壇の側に立つて何處ともなく遠き一點を見詰め給ふ此庭園の主なる小笠原長幹伯の傍に微笑る、伯夫人が、畏れ多くも皇后陛下よりの御下賜の新裝を召した御風姿は香りも清けき花よりも御美しい。

尺八の泰斗鳥居若菜氏と琴山の名手天笠夫人とは再び舞臺に表はれて合奏された山は其名も芽出度き明治松竹梅、祝ひの氣滿ちたる自然の靈と相感發してか、其音調は伯爵御一門の繁榮と女子青年會の前

千代かけて壽ほぐかのやうに聞えました。當り會の體操部のフォークダンスは今日の盛會の無言の御禮と思召し給へと許りに足く欣々として舞はれました。千八百有餘人の會衆が三々伍々家路につくの彼方の黑綠の森の裾を紅の夕日は薄く濃めて居ました。椅子も疊まれ舞臺も取り拂の廣野は烟って月が出ました。水鏡のやう。片隅なる石の邊りに造物主の御前に額いた年會の働き人は紺碧の海に浮べる、我日のと社會とのいよゝ行末の幸を祈り且はそれ可き我女子青年會の使命に就いて深き思ひでした。寞に包まれた小笠原家の御庭園は月光を浴永遠の美と靜かなる魅力とを示して、後髮

東京基督教女子青年會報告

五年越の世界戰爭は獨帝退位と共に其の終局を告げ遂に大正七年十一月十一日休戰條約締結の調印が終りました、實に此日は忘れ難き世界的感謝と祝賀の記念日となりました。又同時に私共日本婦人に取つては「目を醒し堅く立よ、覺悟を新にせよ」と云ふ鋭い警告をあたへられた日となりました。何卒會員諸姉一同此機を逸せず奮發努力あらむことを祈ります

今年の萬國基督教女子青年會祈禱週は恰もこの休戰の報に接したる前日曜日十日より初りました。會館では世界各國青年會員を特に思ふと云ふ此好機に際し意味深き祈禱週を守りたき覺悟にて最初日には河井幹事の御奬勵を願ひました。出席せし百名餘の

名打集ひ、諸幹事交る〳〵司會を勤め、同じ
許に祈りました。園遊會を前に控へ準備の爲
き時に特に萬事を捨て、靜思祈禱をなす特典
られ感謝に滿たされました。
質上の準備と共に祈を以て用意せし此園遊會
有の盛會にて感謝の言葉に苦しむ次第です。
年は惡性感冒の流行せし際切符を販賣するこ
幹部にては隨分憂慮せしが會計報告通り金壹
圓餘の純益金を收めたりと云ふ好成績を擧げ
。これは會員會友の厚き援助と努力の結果が
〳〵と現はれて居ります。實に感謝です。又小
家にては非常の同情を以て庭園使用許可され
上又種々の便宜をあたへられたる一同は大に
れました。又其の他餘興の方へは深き同情を
援助されたる幸は決して忘れられません。此所
準備にこぎつけます迄隨分多大の方々の御配
戴きましたことも記憶に深く留つて居ります。

も深く御禮申上げます。一般の方々へは事なれぬ爲
澤山手落ちがありましたが御許しを願ひます。特に
紅茶店の方へ會員寄贈の菓子に加へて東洋製菓株式
會社及風月堂本店より御菓子寄附を得たることを
皆樣に御紹介してよろこびたいと思ひます。斯く東
京青年會が年々多くの同情者をあたへられ事業も
發展し來るを思ひます時益々神に近づき充實したる
よき會にせんものをと祈ることと切にして止みません
委員一同にかはり深く感謝を申述べました。

（加藤嵩子記）

□園遊會會計報告

□收入總額金千五百拾六圓八拾壹錢也

內譯

一寄　附　金　　四拾四圓〇五錢也
一切符賣上高　　千參百參拾圓貳拾壹錢也
一茶菓純益　　百〇五圓拾五錢也
一壽司店純益　　拾　五　圓　也

字店純益　　貳拾貳圓四拾錢也

總額金貳百貳圓五拾錢

刷　代　　拾七圓五拾錢也

祝及電車　　七圓六拾錢也

搬人夫賃　　參拾四圓八拾錢也

ノ運搬　　五　圓　也

臺費用　　四拾四圓四拾錢也

禮　　五拾四圓五拾錢也

費　　拾八圓七拾壹錢也

洋菓子材料　　拾九圓九拾九錢也

上

益金千參百拾四圓拾壹錢也

演藝會

（横濱基督教女子青年會）

にかゝる演藝會が當地の開港紀念會館で十一月十二日の午後六時半から開かれました當日は秋霖も暫し降り止むで久しぶりの好天氣であつたので開會に先ち聽衆は早くも廣い會場の過半を占めました、西川樂器店を始め市内の同情ある諸姉の働きで豫想外の盛況を呈した事を先づ以て感謝せずには居られません。

今回は演藝の種類が日本在來の歌舞音曲に限られたので場内の空氣がどうであらうかと首を傾けた方もありましたが、扨て初まつて見ると存外優美の點が少なくなかつたので私共の取り越し苦勞は全く杞憂に過ぎなかつたのであります、少女連の愛らしい舞踊が大層お氣に召したと見えて方々から拍手喝采が起り日向きむ子女史の艶麗なる踊り振りは態度と云ひ氣品と云ひ云ふに云はれぬ妙趣があつて、其昔靜御前が花とゑまふうちに高き思ひを忍ばせた其素

婦人の手に依つて多方面の事業が此處に澤
はつて居る事等かいつまんで述べられた時に
空氣は緊張して少なからぬ感動を會衆一同に
樣に思はれました。
ば風餐露宿果てしもなき荒野にさまよへる兵
の上、其昔イスラエル民族がエジプトの地に
嘗めた其れにも増してもつと／＼いたわしき
て今度のいと小い慰問事業の働きがものかわ
感じが起りました。此日ゆくりなくも休戰の
市中に傳はつて内外人の區別なく一面には歡
に滿ち／＼て居るに就けても街頭出征兵士の
に同情の涙が禁じ得なかつたのであります。
演藝會は豫定の時刻に進行して午後十時過る
を告げました。

されし支部及人名

□玩具の部

横濱英和女學校青年會　共立女學校青年會
捜眞女學校青年會　フエリス女學校青年會
青山女學院青年會　札幌女子青年會
上川梅花幼稚園青年會　東京女子青年會
盛岡女子青年會　山内夫人
谷崎うん

□着類日用品の部

宮城女學校青年會　神戸女學院青年會
青山女學院青年會　遺愛女學校青年會
陶山よね子

□金子の部

福岡英和女學校青年會　靜岡英和女學校青年會
新潟教會婦人共勵會　外山信子
岡山高等女學校卒業生

より續々寄贈せられし慰問品、是等は皆會員諸さ御愛心の賜物と心より喜び感謝致して居ミス、マシユー最近の御通信中に、酷寒にしするも之を防ぐ術なき多くの避難民、男女即に及ぶを得ずとも、少なくも可憐なる兒童しも、寒さに侵されぬ様、温き着物にも覆ひの希望につき、滿腔の御同情を以て、材料の問はず、何なりと適當な品を御製作、御寄贈ことを切望して居られます。
の見本も到着致しました故御入用の御方は本申越し被下い。

消　息

シウ。　米國赤十字社の用務をおび浦鹽より二週間の暇をされしも十一月十一日八人の米婦人を伴ひ再度該地に趣く紙に依れば、避難民の衣類の缺乏甚だしく新古に係らず成衣服、蒲團、毛布の類を送られたし、殊に小供の冬着に至呉れよとの書面來れり新調には見本本部にあるを以て望の時寄與する便宜あり、この報を聞てより直ちに東京女子青同情なりとてチエック兵慰問の爲然與されたり。

○山田清野。　新潟基督教會の共勵會より西伯利事業の爲とて山田氏を通じ金三十圓寄附さる。

○外山信子。　夏以來病院にて治療を受け居りし姉妹は昨今幾分か快方にて近日轉地の由斯る際にも本會の爲とて金三圓寄附せらる。

○非深花子。　御次男御結婚遊ばさる。

○德澤惠子。　姉の令兄は十一月中新婦を迎へらる。

○一柳まき子。　十一月末無事歸京せらる。

○廣岡かめ子。　同家に三十名餘りの婦人方集り山本邦之助氏の歐米談、河井幹事の西伯利談等ありたり。

○大塚常子。　流行性感冒の爲令息令嬢二名を失はる同情に堪へず。

○ブックマン氏。　個人傳道司導者として有名なる同氏は來十二月二日より一週間東京女子青年會にて女教師の爲特別集會を開催せらる

○河井幹事。　府下小名木川にある富士紡績會社にては時々宗教の會合を開き十一月中河井幹事出席したり。　工務長なる渡邊徹氏の言には府下附近五郡を合せは人口十八萬にして資本金十五億萬圓を玆に投じあるも未だ一個所の講義所さへも此地方にはあらざりき。　斯る缺陷を基督教信者の顧みざるを悲しむ。

○加藤幹事。　姉は市ケ谷教會にて講演す。

一女子青年界定價及廣告料

	定價郵税 一冊	定價郵税 一年前金	廣告料 一回掲載
内地	金八錢	金八拾錢	一 金五拾錢
海外	金拾壹錢	金壹圓貳拾錢	四分一頁 金五圓

大正七年十一月廿八日印刷納本
大正七年十二月一日發行

發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會　電話本局八九八　振替東京一三七二三番

發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子

芝區□和泉町七番地


東京銀座
合資會社
山野樂器店
電話 京橋 一〇五二 二二九八番

settlement business houses for the first business girls club supper which 13 sat down on Saturday evening, Nov. 16th, at the forei secretaries' home. The business girls have been coming for Sund afternoon teas and informal prayer meetings and are to start a regu Bible class from Nov 24th.

The World's Week of Prayer has been our most significa experience so far. Copies of the prayer topics issued by the Natior Committee (translated from the World's pamphlet) were given to Committee members to use in their homes. Two meetings were form ally planned—the first on November 10th, held at the Y.M.C.A. buildi and chiefly for committee members, was addressed by Mrs. Jo on t topic for the day—the Fatherhood of God. The world vision of t women was evidenced in their prayers in a wonderful way. Eightee were present at this meeting, and on Thursday evening, at the secon meeting,—25 younger girls, chiefly from the English classes, join in prayer and later in social fellowship and games, after which th said good night with radiant faces and the request that we have suc a meeting again soon!

November 18th, Mr. Kagawa, social service expert, began a cla on the study of social problems, the general subject of which "Industrial Civilization and Christainty." The class is under th auspices of the Y.W.C.A. and held at Kobe College building. Eightee attended the first session, to which the women teachers of all th schools in Kobe had been invited.

Miss Topping was made a member of the United War Work Driv Committee for Kobe, Osaka and Kyoto, co-operating with the Japa committee for raising our share of the $170,500,000.00 raised by th seven societies.

November 19th, Miss Kawai spoke to a public mass meeting hel at Kobe College, on her recent experiences in Siberia.

Tokyo Association

The opening meeting of the World's Week of Prayer was hel on Sunday, November 10th. Over one hundred were present, includin pupils from the various student associations in the city, to hear Mis Kawai's address. Daily prayar services were held the following wee at three o'clock with an average attendance of twenty.

A garden party was given in the garden of Count Ogasawara Ushigome on Saturday, November 16th to raise part of the annua budget. A program of Japanese music and story telling was given also an English play by some of the foreign children of the community The Mitsui band was in attendance. The net proceeds were Yen 1320.00.

At the request of the Mombusho Kyoiku Tenrankai (Exhibit of the Government Educational Department) Miss Patterson sent an exhibi from the Household Science Department of several kinds of jams pickles, and soap; showing the processes, the actual quantities, etc.

wing ways; outfitted with foreign clothes, introduced to friends in
le, Honolulu, Los Angeles, San Francisco, passed on directly to
Y.W.C.A. in California through Miss Ellis, escorted to the Kencho,
. company offices, to examining doctors, and hospitals; taught
ng, cooking, laundry, bed making, and how to clean rooms,
ed foreign houses on the Bluff, etc. We hope that this work can
reatly enlarged next year, and that our friends all over Japan will
on us to help any young women whom they may know are coming
okohama to sail from this port.

On November 12th a large concert was held in Memorial Hall,
h was purely Japanese, concerts of foreign music having been too
ent lately to assure a good attendance. The net profits were
424.00.

Kobe

On October 26th there was held a meeting to which women of
e churches were invited. On the 31st the nearly 200 mission
l gaduates resident in Kobe were similarly asked. These meetings
for social fellowship, and informal counsel and prayer about the
Y.W.C.A. There was small attendance on account of the prevailing
nza, but splendid spirit.

After these preliminary gatherings, and much calling to secure
nittee members, Miss Fujita, the General Secretary, called together
reorganization committee on November 4th. Its second meeting
held with Miss Kawai on November 18th; 20 Committee members
ive secretaries were present. Executive officers were elected, and
s decided to begin to make plans and raise funds for a building
diately. Miss Kawai's happy suggestion that the Kobe Y.W.C.A.
ing fund should be a memorial of the establishment of world
was instantly received. Kobe people like a big objective—the
r the better! The building is to combine both offices and
itory accommodations (with separate budgets after they are
d) and will be planned to respond to the immediately imperative
, and allow for future expansion. Yen 300,000 is the approximate
eeded for land and building. Preparation forlthis effort will be made
now on, while the finance campaign itself will begin very early
year. A percentage will be included in the budget as a special
o the new Y.W.C.A. work in Siberia. Earnest prayer is asked
e newly elected chairman, Mrs. Haseba, and the other officers
ommittee chairmen, and for all the 45 committee members in this
undertaking.

Miss Nixon has been starting English classes for commercial girls,
now has two with a total enrollment of 20, each meeting three
weekly, one composed of girls studying typing at Palmore and
ther of railroad station employees. Mrs. Kira starts a Bible class
ovember 19th for the railroad employees. The others are already
Bible class taught by Mrs. Oxford at Palmore Institute, the
odist Commercial School for boys. Mrs Oxford is one of our
nittee members and kindly lends her home and school building
e work.

Miss Narishima and Miss Masuda gathered the business girls from

We are most happy to have Miss Kawai at headquarters again after a three week's absence in Siberia. While there she saw the work of the Japanese Red Cross, the American Red Cross, Military Barracks, both the best and the worst side of Japanese life, and went as far into the interior as Habarovsk, which is 600 miles north of Vladivostok. A detailed account of her visit is now appearing in the Japanese section of this magazine, the first installement having been printed in the November number. In speaking of her trip recently she said: "I regret to say that only the unpleasant side of Japan is known in Vladivostok, and I think the anti-Japanese feeling is quite strong, not only among Russians (in fact I do not know that side) but among other nationalities. Here is a great mission for Japanese Christians to show the better side of their country, and also for them to work for true fellowship with other nationalities. More and more I see that only in Jesus Christ can we have real fellowship and union. Racial prejudice exists everywhere. The way to eliminate it is not by having business men, intellectual people and government representatives of different countries come together and shout "hurrah" or "banzai" and drink champagne together; but a drink of cold water must be given by the Christian people to even the smallest in the name of Jesus Christ.

"If I talk only about the dark side of my country and the dark elements working in other countries, I become most pessimistic. One day I could not help weeping in thinking over the sins and wickedness of people and especially my compatriots in other countries. But in reading once more the Sermon on the Mount and thinking of the social conditions which must have existed in the time of Jesus Christ; and remembering, in spite of that, the trust he had in human beings for their future development and the bringing in of the kingdom of God, my courage returned and with humility I bowed to Him who is the Father of all nationalities. In the Kingdom of God there are no foreigners

"To that end we all must work according to the talents given us, and we of the Y.W C.A. wish to express this desire and longing by opening our doors in Vladivostock in mutual co-operation with Christian forces here in Japan, to represent the best side of our country, and also to serve those who need our help in Siberia. This will be the beginning of our bigger work in this era of reconstruction."

Yokohama Association

The second year of the Yokohama association has just closed with the annual meeting and election of officers for the ensuing year. The following members of the Board of Directors, whose term of office expired, were re-elected for a term of three years: Mrs. Tei Fujita, Mrs. H. S. Sneyd and Mrs. Nishikawa. The old officers were re elected with the one change of Miss Chiyo Narita for secretary

復刻版　女子青年界　第9巻
1992年10月9日発行
本体価格　22、000円
発行者　船橋　治
発行所　不二出版
東京都文京区向丘1-2-12
〒113　☎03(3812)4433
印刷所　三進社
製本所　青木製本所
中性紙使用
乱丁・落丁はお取り替えいたします。